

要旨

テーマ：多様性のあるビッグデータの活用

1. はじめに

現在、日本では総務省が先導して官民一体で経済の活性化、行政の効率化を期待して公共データなどのオープンデータの公開を推進している。しかし、現段階ではオープンデータの活用事例は少なく、企業等による活用も推進されていない。オープンデータの公開については主に各都道府県や市町村に任せられており、地域によって公開しているデータの数は全く異なる。また、各自治体によって公開されたオープンデータは十分に浸透・活用されていないことも課題の一つとして挙げられている。

そこで、オープンデータの有効利用モデルを開発して、企業等での利用が推進できるサービスモデルの一例となれば、企業や組織等による有効利用と、それに伴った各自治体による公共データ公開の動きが、共に加速して相乗効果が生まれることが期待できる。本研究ではオープンデータの有効利用モデルの1つとしてオープンデータを利用した出店支援システムの構築を目指し、研究することとした。

2. 当グループでのビックデータの定義

ビックデータの特徴である3V (Volume, Velocity, Variety) のうち“variety” (多様性) のあるデータ＝「オープンデータ」を取り上げる。

3. 仮説

単一では利用価値が低いデータでも複数種類利用し、多様性を持たせることで企業が独自に収集したビックデータによる出店に適した位置の分析に近い結果を出すことが可能であるという仮説を立てた。

4. 研究手法

- ・ 任意の時点の地域メッシュに同業種の既存店舗位置および、統計データをメッシュに反映させる。次にメッシュ単位でハフモデル分析を行うことで既存店舗の商圈を作成し、新規出店に適したメッシュを特定する。
- ・ 結果の精度は分析時点以降に新規出店された総店舗数を母数とし、店舗位置が上記で特定した「新規出店に適したメッシュ」内に存在する確率により測定する。

5. 着地点、ねらい

本研究ではオープンデータを用いた出店支援システムの有用性を過去の出店実績と比較することで実証し、実際にこれから出店すべき位置や傾向を算出することを目標とする。また、「なぜオープンデータの利用が活発化されないのか？」という部分に、企業側の視点から着目し、課題があれば提示する。

要旨

※文章内の記載の会社名および製品名は、各社の登録商標および商標です。